

# 神指城と越後街道

上杉景勝（かげかつ）・直江兼統（かねつぐ）は、慶長三年会津に百二十万石の領主として会津に入ります。城の整備は、まず最後の砦（とりで）となる会津美里町本郷の向羽黒山城を準備します。向羽黒山城の整備が完了すると、新しい城として「神指城」の工事を慶長五年（一六〇〇）三月十八日に、八万から十二万人を動員して始めます。徳川家康が攻めてきたことから六月十日に工事を中止します。

城の北には、宇伊丹堂がありこれは「御霊堂」（みたま堂）が変化した呼び名で、その南には宇八坊跡があり、八つの寺が途中まで建てられていましたが、米沢移封となり取り壊されたようです。

新潟県南魚沼市の雲洞庵は磐越道の北、会津若松市高野町界沢に洞雲寺に名を変え建てられしばらくありましたが、寺は会津若松市街地と市内大戸町上三寄へ東（洞雲寺として移転しました）。



「女隊・娘子軍奮戦地」中野竹子殉節碑  
慶応四年（一八六八）八月二十五日夜九時頃から三十分間、柳橋の北約六百メートル、会津坂下から若松城下へ入ろうとした会津藩士二五〇人と中野竹子や母こう子、妹・優子ら六人の娘子隊は、長州と大垣藩と戦います。竹子は銃撃を眉間（みけん）に受け二十二歳で戦死。妹と農民が竹子の首を切落し会津坂下町の法界寺に運び埋葬します。

「高瀬」とは、湯川と応湖川が合流し、高い波が立ったので高瀬という。この場所は広くなっていたので「広沢」のちに「平沢」と呼びました。

江戸時代の「越後街道」

「高瀬の福音寺」  
会津三十三観音の一つ。金売吉六の墓があります

「応湖川（おおこがわ）」  
今は無く湯川より広がった

「高瀬のケヤキ」  
樹齢推定約六百年の大木。神指城が造られる前からありました

「江戸時代の会津藩の刑場跡」南妙法蓮華経と書かれた供養塔があります

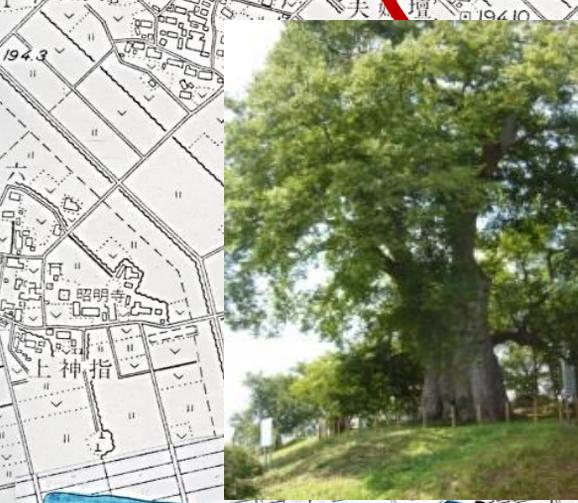
「キリシタン塚」  
寛永十二年（一六三五）十二月十七日加藤明成によって、キリシタン横沢丹波と外人宣教師ら六十人が処刑された場所

「柳橋」  
城へ石垣を運ぶため柳の木で橋を架けた

「酒槽（さかふね）」  
築城時、酒を飲ませた場所

伊丹堂（御霊堂）

八坊跡



「新選組受難地」  
慶応四年（一八六八）九月五日、齋藤一ら新選組十三人が西軍に襲われた場所



天満⇒北会津の天満へ